



## 再認識 一人ひとりを大切に

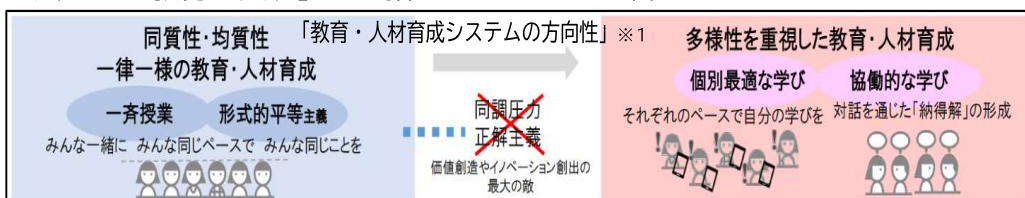
校長 竹下 護

38日間の夏休みが終わり、学校に子どもたちが戻ってきました。369人の子どもたちとの再スタートです。満面の笑顔で元気な挨拶をして登校してくる子、友達との会話に夢中になりながら登校してくる子、荷物を抱え足取りも重く登校してくる子、いろいろな表情をした子どもたちを迎え入れました。この夏も感染症の拡大により地域行事が中止になる中、一人ひとりの子どもたちはそれぞれのご家庭などで様々な体験をしてきたことと思います。

夏休み中、閉庁期間へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。職員はこの期間を活用して5日間の夏季休暇を取ったり、外部との対応がない静かな職員室で授業の構想を練ったりしていました。その期間以外においては、校内で研修や会議、大掃除や物品整理などの教育環境整備、夏休み明けの教育活動の準備等をしていました。また、校外でも研修や会議、校外学習の下見、総合的な学習の時間の協力者との打ち合わせ等をしていました。

横浜市教育委員会では、毎年夏休み中、「横浜市教育課程研究委員会研究協議会」を各教科や領域等の部会に分けて開催し、職員が参加しています。今年度は、『育成を目指す資質・能力』をどのように捉えていくか』について協議しました。「総則部会」では、内閣府「総合科学技術・イノベーション会議」の資料が示され※1、「これからの横浜の学校教育の方向性」として、「一人一人を大切にしたい学びと誰一人取り残さない教育の実現」を目指していくことを確認しました※2。

本校では夏休みの終わりに職員同士で、子どもは一人ひとり異なる家



庭環境で育ち、体験や個々の関心・意欲、人とのかかわり方、配慮事項等は多様であることを再認識しました。「やっぱり一人ひとり特性が違うし、学びに向かう姿や理解の仕方も違いますよね。」「これからもスキルアップルーム（個に応じた支援）の活用をしていき



ましよう。」「夏休み明け、個別最適な学習づくりをやっていきます。」等の職員の発言がありました。

今後も担任だけではなく、全教職員、大竹スクールカウンセラー、長島スクールソーシャルワーカー、有川スクールサポーター、見守りをしてくださっている地域の方、等々とも連携・協働し、様々な見方で一人ひとりの子どもを捉え、可能性を最大限引き出していきます。ご家庭でも引き続き、お子さんと目を見ながら話したり、表情や何気ない動作等から心身の状態を捉えたりしてください。夏休み明け、お子さんのことでご心配なことがありましたらご相談ください。